

ころばん体操 出前講座 本浦東公民館

平成28年9月1日(木) 13:30~15:00

参加者 計30名 (男性5名 女性25名)

【講話】

I・「いつまでも自宅で暮らすために」・・・(在宅医療)

いちき串木野市包括支援センター 保健師 久保小百合

日本人の死亡率は・・・？ 会場に質問

人は必ず亡くなる 100%の死亡率です。どこで最期を迎えたいか、どんな生活を続けながら最期を迎えたいか一人一人がこれを機会に考えてみてください。健康年齢は、だいたい10年と言われています。地域で支え合って元気で自宅で過ごしていけることが大事です。が介護が必要になってしまう事もこれから少し考えてみていただきたいと思っています。

市が行った地域のアンケートでも自宅で最期まで暮らしていきたい人が41%、考えたことがない人36.3% 病院の人は11%でした。やはり自宅で最期まで暮らしたい人が多いです。



II・ 「がんばりすぎない介護を応援します」 ～退院支援について～

いちき串木野市医師会 在宅医療・介護連携推進事業 コーディネーター 南新敦子

退院に向けて入院中から院内スタッフ、在宅関係スタッフが連携を取り在宅生活への準備を支援します。ご家族の介護負担がすこしでも軽くできるようにサポートしていく相談も受けています。介護度や高い患者さんや医療が必要な時でも、訪問看護等を利用しながら自宅生活を続けられるようサポートしていきます。家族や、ご本人の想いに沿って在宅での生活を希望され退院された事例を聞いて在宅支援のイメージを知っていただきたいと思います。

参加者の声

「認知症がやっぱり心配よねえ・・・」

健康年齢はもう越しているよ！このまま元気が一番だね。

Q 病院に入院している時でも相談できるんですか？

A 病院には相談員もいるのでそちらを優先にさせていただいた方がいいですが、問題ないです。相談を受けて必要な機関にも連携します。

Q 介護認定が無い状態でもサービスが可能ですか？

A 介護サービスは認定が必要ですが、救急に必要の場合や訪問看護など包括な支援センターなど相談して対応をしていきます。

男性の参加も多く、活発なご意見を出していただきました。マイライフノートを「これが欲しかったんだ。」と喜んでいただきました。